

会 議 録

1 会議名

令和4年度第2回上越市食料・農業・農村政策審議会

2 議題（全て公開）

(1) 令和4年度上越市食料・農業・農村アクションプランの評価について

(2) 令和5年度上越市食料・農業・農村アクションプラン（案）について

3 開催日時

令和5年3月13日(月) 午後2時から

4 開催場所

上越市役所 第1庁舎 4階 401会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

—

7 出席した者の氏名（敬称略）順不同

・委員：高橋賢一、松野千恵、嶋谷玉実、野口和広、大滝正秋、相澤誠一、
木方亮一（代理）、八木豊、藤沢勝一郎、笠鳥健一、清水裕一、白土宏之、
土田志郎、伊藤亮司、太田和枝、小島藤吉

・事務局：農林水産部 空部長
農政課 栗和田課長、石田副課長、高橋副課長
北山係長、宮澤主事、中里主事
農村振興課 佐藤課長、飯田中山間地域農業対策室長、廣田副課長
農林水産整備課 笠松課長
農業委員会事務局 池田事務局長

8 発言内容（要旨）

（1）開会

【北山係長】

- ・上越市食料・農業・農村政策審議会規則第3条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・人事異動に伴う、野口和広委員、遠藤正義委員の就任を報告。

(2) あいさつ

【土田会長】

- ・委員の皆様には、年度末のお忙しい中、本審議会にご出席いただき感謝申し上げます。
- ・新型コロナウイルスに関しては、インフルエンザと同様の感染防止対策へと方針を転換するようであるが、依然として重症化・後遺症リスクが心配されるため、引き続き慎重な感染防止対策が必要である。
- ・また、2年目となってしまったが、ウクライナ侵攻が非常に大きな問題となっており、エネルギーや資材価格等の高騰を招き、農業経営に深刻な影響を及ぼしている。マスコミ等の報道によると、酪農経営では、飼料価格の高騰に加え、子牛価格が雄で1頭当たり1,000円程度にまで落ち込んでいる。そういった深刻な状況のため、廃業する酪農家も増えているようである。
- ・一方、4年産米の販売状況については、12月までの相対取引の全銘柄60kg当たり平均14,000円程度となっているようである。前年よりも8%ほど高く、令和2、3年産と比べると、その中間当たりで推移しているようである。また、上越米を含む新潟コシヒカリは60kg当たり16,700円となっており、前年と比べると、7%ほど高くなっている。ただし、令和4年産は、生産費がかなり高騰していると思われるため、60kg当たり所得や利益、10アール当たりの収益性などがどうなっているのか、把握しておく必要があると思う。
- ・令和5年度の米生産については、全国の生産目標数量は4年度に比べて6万トン少なくなっており、669万トンとなっている。米消費の減少傾向が続いているため、多用途米や大豆、野菜類の主要転作物の需給動向、価格動向、転作交付金、助成金の水準がどうなっているのかをしっかりと把握した上で、今後、中長期視点から、いかにして適切な作物選択、そして水田の高度利用、さらには売り込みをしていくかというのが大きなポイントになってくるのではないかと考えている。
- ・本日の審議会にあたっては、これらのことも踏まえていただき、幅広い観点から、今年度のアクションプランの成果、そして来年度のアクションプランの内容について、ご意見をいただきたい。限られた会議時間ではあるが、委員全員の皆様から、ご意見ご質問をいただきたい。

(3) 議事

- ① 令和4年度上越市食料・農業・農村アクションプランの評価について
- ② 令和5年度上越市食料・農業・農村アクションプラン（案）について

【北山係長】

- ・当審議会の議長は、審議会規則第3条により「会長が議長となる」とあるため、土田会長から議長を務めていただく。

【土田会長】

- ・「3 議事 (1) 令和4年度上越市食料・農業・農村アクションプランの評価について」、事務局から説明願いたい。

【栗和田課長・佐藤課長・笠松課長】

- ・「資料No.1 令和4年度上越市食料・農業・農村アクションプラン進捗管理表」により説明。

【土田会長】

- ・今ほど事務局より説明を受けた。委員の皆様からご質問はあるか。

【土田会長】

- ・12 ページの取組項目②「地域重点品目の新規作付け、作付拡大に対する支援」の評価として、えだまめについては出荷作業での品質管理が不十分な体制となっていることから、品質低下を招いている状況にあるということになっている。品質は重視しなくてはならない項目だと思う。課題には、JAでは令和5年度からえだまめ、集出荷施設の機械整備とあるが、出荷作業に関係した品質管理ということになるのか、或いは収穫段階から始まる品質管理といったことも含まれるのか、補足していただきたい。

【栗和田課長】

- ・えだまめについては、評価にあるように製品化率が目標に達していない。それは生産者が、コンバインで収穫していることなどが影響していると思う。できるだけ農業者の意識を高めるとともに、施設をしっかりと整備し、品質や製品化率を上げることを課題としてとらえている。それらの点をこのアクションプラン進捗管理表で整理をさせていただいた。機械整備や生産方法について、意識を上げていきたいと考えているところである。

【笠鳥委員】

- ・出荷作業段階での品質管理が課題となっている。現在、JAで既に選果場を構えているが、作付面積が急に増加し、選果施設の能力が大分不足してきているということから、予冷库など選別ラインの増強を計画している。正式決定はしていないが、今後、令和5～7年の中で、整備を図り、今後の面積増加にも対応できるよう、市・県・国の補助事業等も活用しながら、整備する予定としている。

【白土委員】

- ・ 15 ページの取組項目③「柵田と柵田地域の魅力等の発信」について、力を入れているのはよく分かるが、駐車場はあるのか。グーグルマップに載っていれば、たまたま近くを通ったときに立ち寄りやすい。また、どこまで入って良いのか、見るときのポイントが示されているのかどうかを教えてください。

【飯田室長】

- ・ グーグルマップについては、二次元コードを載せており、それを読み取ると場所が分かるようになっている。駐車場については、柵田であるため、場所によりあるところとないところがある。柵田の立ち入り禁止エリアの表示や地図上の表示については、今後の検討材料にさせていただきたい。

【空部長】

- ・ 柵田マップは、市単独で作成したわけではなく、各地区に柵田地域振興協議会を立ち上げており、そこから写真等を提供してもらっている。私も駐車場があったほうが良いと思うし、展望の良い場所にたどり着けるようになっていないと、行ったときに分からなくなってしまう。そういった細かい点が、今後の課題だと思っている。いただいたご意見を活用させていただき、現地への行きやすさや注意書きの看板など、改良を加えていきたいと思っている。

【鳴谷委員】

- ・ 柵田マップについて、私の住んでいるところもマップに取り上げていただいているのは大変ありがたい。しかし、私も地域の住民もそうであるが、このマップが一体誰のために作られて、どういう活用をしたいのかというのが全然見えてこない。ただ作っただけでは非常にもったいない。何に活用したいのかというのをもう少し明確にした方が良いのではないかと。柵田マップに関する取組項目は、基本施策「生活環境の整備」に掲載されているが、柵田を見てそこに住みたいと思う人に向けて作っているのか、上越市民にも見に来て欲しいと考えているのか、或いは何か教育の現場で使おうと考えているのか。どのような使い方をしたいのかを、もう少し明確にし、作っただけで終わらないようにしていただきたい。

【飯田室長】

- ・ 柵田マップの取組項目が基本施策「生活環境の整備」に掲載している点については、令和 2 年度から柵田地域振興の取組が法制化され、従来の柵田の保全や多面的機能の保全に加え、柵田を核とした地域振興という要素が非常に大きかったことが理由とし

である。市としては、この棚田マップを特に市外の方から手に取っていただき、地域に出向き交流していただく中で、少しでも棚田を応援してみたり、様々な形で支援してみたりといったことを促すことを期待し、3月6日から配布を開始している。いただいたご意見を踏まえ、対象や目的などをもう少し意識し、市内外の方に発信できるように検討していきたい。

【土田会長】

- ・今ほど、委員の皆様からご質問をいただき、事務局からも回答をいただいた。令和4年度上越市食料・農業・農村アクションプラン進捗管理表については、委員の皆様から了承をいただけるか。

＜委員了承＞

【土田会長】

- ・それでは、次に、次第の「3 議事（2）令和5年度上越市食料・農業・農村アクションプラン（案）」について、事務局から説明をお願いしたい。

【空部長・各課長】

- ・「資料No.2 上越市第7次総合計画（抜粋版）」、「資料No.3 令和5年度当初予算案の概要（抜粋版）」、「資料No.4 令和5年度上越市食料・農業・農村アクションプラン（案）」により説明。

【土田会長】

- ・「令和5年度上越市食料・農業・農村アクションプラン（案）」はボリュームがあるため、分野ごとに区切って議論を進めたい。最初に資料7ページから27ページまでの「食料」の分野に関して、委員の皆様からご意見・ご質問等はあるか。

【小島委員】

- ・20ページの取組項目③「首都圏等への農産物等の販売促進」のマルシェとふるさと納税についてであるが、自分は両方ともやっている。お米や餅を売るのは当たり前のことであるが、ふるさとの名前や上越市の良いところを売るべきだと思っている。そのため、せっかく食味ランキングで「特A」を取ったのであれば、それをどこかでPRできないか。ふるさと納税に取り組むのは良いが、お米だけを送って終わりになってしまうのではなく、上越市の魅力に関するパンフレットのようなものを一緒に詰めて、送ったら良いのではないか。

【佐藤課長】

- ・どのような方をターゲット層に決めて、何をどんなふうにするかというのがマーケティ

ングということで、今年度開講したマーケティング活用の実践塾で、講師からのお話を受け、受講生の皆様が1年間取り組んでこられた。食味ランキングの「特A」については、昨年であれば、「特A9年連続受賞」を謳っている方もいる。今回、2月に「特A10年連続受賞」が確定したため、それを謳う画面に変えていただければというのを、市ではふるさと納税返礼品提供者に伝えようと考えていたところである。

- ・ふるさと納税返礼品の実績報告会を1月に実施したが、その際に講師からは、上越市の認知度は全国でもあまり高くないということで、上杉謙信と上越市、桜と上越市がつながっておらず、その比率は3割ぐらいだというお話であった。また、ふるさと納税返礼品のページにおいて、上越市に何が紐づくのかを載せることや、返礼品を提供する際にそういった情報が結びついているというのが大切だというお話もあったことから、ふるさと納税の活用と上越市の魅力の発信を結び付けて取り組んでいきたい。

【小島委員】

- ・自分もふるさと納税のホームページにアップはしたが、ノウハウがなかったため、2件ほどの応募で終わった。その後、上越特産市場が入り、定期便で対応してくれたことなどにより応募が増えた。農業者のスキルアップも必要であるが、任せる部分は任せの方が効率的だと思う。

【佐藤課長】

- ・上越特産市場を運営している事業者から、ふるさと納税返礼品の提供事業者に加わっていただいた。特産市場に結びついている農業者は、農業者自らが登録事業者にならなくても、希望すればふるさと納税返礼品の提供が可能となるという仕組みである。特産市場は、どうすれば農産物を良く見せられるかといったノウハウを持っているため、上越市の農産物の返礼品がより選ばれやすくなってきている。特産市場には研修会に参加していただいているが、市としても協力しながら、引き続きふるさと納税に取り組んでいきたいと考えている。

【藤沢委員】

- ・自分は千葉県に住んでおり、様々なテレビ番組を見るが、去年の4月から今月まで、上越市関連のテレビは、全部で16本あった。その中で、上越市の食べ物の紹介では、するてん、ところてん、サンドパンなどが出てきた。妙高市では豚汁が紹介されていたが、上越市で作られた雪むろ酒かすラーメンは一度も出てきていない。広報媒体としてのテレビを積極的に利用してほしい。
- ・米やえだまめなど良いものを作るというのは非常に大事である。しかし、それは原材

料の供給・販売であり、あまり儲からないのではないかと思う。米粉で麺を作ったり、パンやクッキーを作ったりするなど、儲かるような農業であれば、後継者不足の問題はおのずと解決するのではないか。もちろん加工品は時間もかかるし、研究や販売努力も必要になる。しかし、例えばクッキーは大体 350 円/100 g ぐらいで売られている。米でいうと、3,500 円/kg ぐらいになる。そのため、当然加工費などを差し引いても、かなり利益が上がるのではないかと思う。そういった加工品の製造についても、市役所の方からしっかり応援していただきたい。

【佐藤課長】

- ・雪むろ酒かすラーメンについては、上越愛麺会が積極的に進めており、発酵文化ということで取り上げてきているため、テレビなどの媒体の活用について担当部局に話をしていきたい。
- ・6次産業化については、現在、推進戦略を改定している。当然これまでどおり、6次産業の支援をしていく。また最近、製造に関する機械や人的経費までを含めるとコストもかかることから、途中の部分を専門業者をお願いするOEMという形が流行ってきている。我々としては両方あって良いと思っている。また、藤沢委員からご指摘いただいたように、付加価値をつけ、それをいかに一般の消費者に情報提供していくかという2点が、非常に重要な部分であると考えている。そのため、6次産業については、今後も引き続き、市及び国・県の補助事業を農家の皆様に周知していきたいと考えている。

【大滝委員】

- ・13 ページの取組項目③「地域計画の策定」について、今深刻化しているのは農業者の減少と高齢化である。これに伴い、農業経営基盤強化促進法の改正案が出され、令和5、6年度で地域計画を作ることになっており、農業委員会としては、農業委員、農地利用最適化推進委員が農業経営者全員に、農村意向調査及び農地利用意向調査を実施する。目標値については、令和5、6年度と学校単位で19～20地区になっている。地域計画の基盤は農業者を主体にしていくべきであり、行政も含め、十分に農業者同士で話し合ってもらったことにより、それが5年後10年後につながってくると考えている。そのため、官製の地域計画ではなく、農業者主体の地域計画にしてほしいと考えている。

【栗和田課長】

- ・「地域計画の策定」の目標値については、今担い手が集落にとどまらず、様々な形態があり、そういった実情を踏まえ現在、小学校区単位、またはもっと小さな旧小学校区単位ぐらいの計画数を設定している。市としても、農業者等としっかり話し合いをしていくのが非常に大切だと考えているため、いただいたご意見を十分に踏まえ進めていきたいと考えている。

【土田会長】

- ・次に、相澤委員から「学校給食で上越産野菜を使うための提案」をいただいたため、ご説明をお願いしたい。

【相澤委員】

- ・資料により説明。

【土田会長】

- ・今の説明について、流通や学校給食の関係で委員の皆様から補足のご意見やご提案はあるか。

【八木委員】

- ・最終的に一番大事なのは生産農家、JA、行政、青果市場の連携だと思っている。JA、行政、生産者など関係機関のうち一つが欠けただけでも流通が乱れてくる。そのため、地域ごとにどういう品目があるかを把握し、次にどれを生産していくのかを検討しながら、関係機関が連携していくことが重要であると思う。また、上越地域の野菜というものをいかに広めていくか、まず地元からしっかりと地盤を作った中で、それを広げていくのが重要であると思う。

【栗和田課長】

- ・学校側として、安定的に供給されないと困るという点は確かにある。個々の品目を限定するというご提案をいただいたが、にんじん・玉ねぎ・じゃがいもについては、かなり量を使うということを学校から聞いている。これらの品目を安定的に生産できれば良いが、市としても生産者の皆さんに情報がしっかりと伝わっていなかったと反省している部分もあるため、生産者側と消費者側が一堂に会してしっかりと課題を共有し、知恵を出し合い、上越野菜の学校給食での使用率を上げていく取組は必要である。そのため、今年度改めて教育委員会と話し合いの場を設けていきたい。

【土田会長】

- ・次に「農業」の分野で、委員の皆様からご意見・ご質問等はあるか。

【清水委員】

- ・34 ページの取組項目②「法人間連携の推進及び集落営農法人等の経営継続に向けた支援」の令和5年度の取組内容で、話合いの場を設けると書いてある。具体的には、どのように行うのか。
- ・35 ページの取組項目④「収入保険の加入推進」について、令和5～7年度の目標値が掲げているが、すでに今年度の実績として256件の見込みとなっている。全国的にも、以前は10万経営体の目標となっていたが、令和5年度から15万経営体の目標に変わっていることから、令和5～7年度の目標値を修正していただきたい。
- ・55 ページの取組項目④「有害鳥獣捕獲の担い手の確保」について、担い手の確保のため、令和5年度から猟銃の新規取得経費を支援していくこととしている。妙高市にはこのような補助制度があったが、上越市にはなかったため、猟友会から見直してほしいとの話があったと聞いている。猟友会は高齢化が進んでおり、引退する方もたくさん出てきていることから、若い世代の方から、猟銃の免許を取得し猟友会に加入していただき、有害鳥獣の個体数を減らしていくのが大事だと思っている。また、上越市から様々な形でPRをしてもらったおかげで、去年は免許取得者が非常に多かったと聞いている。若い世代の方に狩猟の魅力を様々な形でPRしてもらい、免許取得者を少しでも増やせるようお願いしたい。

【栗和田課長】

- ・集落営農法人の話合いの場については、現在協議中である。昨年度のアンケートでは、集落営農の法人化をしたものの、現在後継者がいない、この米価の状況では経営が厳しいという意見があった。現在、県やJAと一緒に法人への聞き取りも行っているところであり、令和5年度中に法人が困っている点などを共有しながら、解決策を見出せるような話合いの場を設けていきたい。
- ・35 ページの収入保険の目標値については、ご指摘のとおり、既に実績が目標値を超えているため、現状を踏まえて再設定したい。

【飯田室長】

- ・猟銃の取得支援制度事業については、令和4年度に国の鳥獣被害総合対策交付金が拡充されて制度が創設されたことから、上越市鳥獣被害防止対策協議会で事業化した。補助率は2分の1であり、1人1丁当たり10万円が上限となっているが、1市町村当

たり 50 万円が限度とされている。しかし、この制度によって少しでも若い人たちが狩猟免許を取得するきっかけになればと期待している。

- ・PRについては、チラシを一新し、ホームページや広報上越、上越タイムスでの周知のほか、FMJの広報ステーションに出演して呼びかけを行った。また、様々なイベントにおいてポスター掲示や、パンフレット配布も行った。
- ・5月29日には、狩猟免許取得希望者講習会の参加者にアンケート調査を行い、なぜ猟友会に入らないのかを聞かせていただき、現状を把握した。そのような分析もしながら、新たな取組も検討していきたいと考えている。来年度については、令和4年度の取組を継続するとともに、農林水産部のインスタグラムでの紹介も行っていきたい。

【高橋委員】

- ・集落営農などにおける話合いはとても良いことだと思うが、話合いの参加者は男性ばかりである。女性や子供たちは違った考えを持っていると考えられたことから、柿崎区において、15歳以上の人を対象に3年間かけて800名のアンケートを取った。結果は、若い人たちも農業は地域にとって不可欠な産業と考えているが、「儲からない」、「きつい」というイメージを持っていることが分かった。また、地元にも今後も住み続けたいという人が圧倒的に多かった。男性だけの話合いだと、なかなか良い意見が出てこないと考えられることから、地域間連携、企業間連携についても同様であるが、地域を守るためにどうしたら良いかという発想を加えるなど、話合いをする際の工夫があれば良いと思うため、話合いの方法等を検討していただきたい。

【土田会長】

- ・非常に重要なお指摘であった。私自身も頭が固くなってしまっており、新しい発想がでなかったり、最近のものになかなかついていけなくなってきたりしているが、若い人や女性は見方が違ったり、新しいことにチャレンジしていく姿勢があったりすると思う。地域を守るためにどうしたら良いかといったことを話し合える場というのは非常に重要であり、そこに若い人などが参加することで、若い人が地域にとどまることに結びついていくことも考えられるため、ぜひ今のご意見を参考にしていきたい。

【空部長】

- ・非常に重要なお意見で、これから取り組んでいかなければならないことだと思う。今後、地域計画の策定に係る話合いの場があるが、その際に誰を呼ぶかというのがとても重要であると考えている。現在、農業に取り組んでいる方だけではなく、特に若い人や女性など、なるべく幅広く声をかけることが大事だと考えている。同じような取

組を一足先にやっているのが中山間地域の将来ビジョンであり、そこでは加工販売に取り組む人や女性など幅広く声をかけ、中山間地域の集落をどうするのかという話し合いをワークショップなどで行ってきた。出だしは非常に苦しかったが、やっぱり地域の魅力や資源などを改めて見直す良い機会にもなったと考えている。若い人の視点を取り入れていくことは地域の将来を話す上で欠かせないことであると思っているため、話し合いの方法の検討はしっかり行っていきたい。

【鳴谷委員】

- ・ 42 ページの取組項目②「耕畜連携の推進」については、大いに進めていただきたい。昨今のウクライナ侵攻により肥料が入ってきづらい状況や、農林水産省の「みどりの食料システム戦略」において有機農業の拡大が謳われていることから、ぜひ上越市内で資源の循環が上手くいくようなシステムを作り上げていただきたいと思っている。そのため、市の取組だけでなく、JAでも堆肥や、鶏糞を使った稲作といった指導も視野に入れながらやっていただきたい。今のJAで扱っている肥料はほとんどが人工的に作られたものである。そうではなく、例えば堆肥をどのくらい入れてどのようにすれば、食味ランキング「特A」が取れるような米ができる土づくりにつながっていくのかということを考え、ぜひ取り組んでいただきたい。

【栗和田課長】

- ・ 畜産農家からは、堆肥の処理に非常に困っているという話を聞く。地域内循環できるよう、堆肥のペレット化など検討は必要であるが、稲作農家から使ってもらえるような働きかけは上越地域クラスター協議会でしっかりと議論し、完熟堆肥となるような施設等の整備について、JAなどと検討していきたい。

【笠島委員】

- ・ 堆肥については、JAで堆肥センターを所有しており、畜産農家と連携した中で畜糞の処理や、カントリー、ライスセンターでの籾殻の処理とあわせ、良質米生産のための堆肥製造を行っている。堆肥のペレット化等については、全国的に研究が進められているが、どうすれば使いやすいかや散布する手間などの点から、受託作業の組織化も現在検討に入れている。JAとしては、耕畜連携を含めた良質米生産につなげるよう取り組んでおり、様々な関係機関と連携していきたい。

【木方委員】

- ・ 21 ページの取組項目⑤「都市生協組合員等との体験交流」について、来年度、交流人数を 350 人増やす目標となっており、我々としても協力したい。この交流事業につい

ては、農を体験することにとどまらず、都市の消費者に対して上越市の魅力を発信していく機会にしていきたいと考えている。大賀の棚田で生産されたお米については、2019年度末対比で供給高や事業高を倍に増やすことができた。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、交流はできなかったが、定期的に生産者から直筆で手紙を書いてもらい登録者に配布したり、上越市の風景の写真をSNSやホームページにアップしたりという形でつながりを設けることを心がけてきた。その結果、棚田米の注文契約者数を維持することができ、3年前に比べて232%まで増えたため、引き続き力を入れていきたいと考えている。

- ・来年度はパルシステムグループ全体で、米を重点テーマの一つとして掲げており、テレビCMも米をテーマにしたものを展開することになっているため、JAとも連携していきたいと考えている。また、食育という視点から、都内の小学5年生に米を学んでもらおうということで、当方の職員が講師として学校を訪問し授業を行っている。毎年、都内の小学5年生の1割以上がこの授業を受けており、すでに10年以上行っている。この取組を続けていけば、30年後には都民の1割以上がパルシステムの授業を受けたことがある状態にできる。米に関する授業ではあるが、産地の取組などを紹介しており、上越市の取組も内容に含めることは可能であると考えているため、積極的に取り組んでいきたいと考えている。

【伊藤副会長】

- ・一言でいうと上越市役所が頑張っているということが伝わってきた。そのため、我々委員が一丸となり、上越市役所の皆様の頑張りを支える立場として応援していきたいと思った。しかし、審議の時間が2時間は少し無理があるように思う。また、事務局から丁寧に説明いただいたからこそ理解できた部分もあり、説明の時間をこれ以上短くするのはおそらく無理だと思う。そのため、審議の時間に少しゆとりを持って設定すれば、さらに活発な議論ができたのではないかと考えており、次回以降に期待したい。

【土田会長】

- ・他の委員の方々も当審議会の構成などにご意見があれば、後日、事務局へご連絡いただきたい。
- ・令和5年度上越市食料・農業・農村アクションプラン（案）については、委員の皆様から了承をいただけるか。

（委員了承）

- ・皆様からの貴重なご意見・ご提案をいただき、感謝申し上げます。

以上で、本日の議題は全て終了した。それでは、進行を事務局にお返しする。

【北山係長】

- ・令和5年度上越市食料・農業・農村アクションプラン（案）については、清水委員から一部目標値を再設定するようご意見をいただいたため、事務局で再設定し、皆様にお送りすることで成案に変えさせていただきたい。

(4) その他

【野口委員】

- ・今年は例年に比べ雪が少ない。3月10日に笹ヶ峰ダムに行ってきたが、積雪は例年の半分の1.5mしかない。これからの作付等に向け、水が豊富な状態ではないように思う。そのため、平成28年や令和2年と同様、番水で対応せざるを得ない部分があると思っている。今後の雨の状況も影響するため、直ちに番水をするわけではないが、作付に支障のないように、対応していきたい。

(5) 閉会のあいさつ

【空部長】

- ・審議は長い時間になってしまったが、委員の皆様から貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。いただいたご意見等は、今後の取組等に反映させていただきたい。事務局の説明についてはポイントを絞ったつもりではあったが、時間を超過してしまい申し訳なかった。今後、時間配分やテーマを絞るなど工夫をしたい。次回の審議会もよろしくお願ひしたい。

(6) 閉会

9 問合せ先

農林水産部農政課農業総務係

TEL : 025-520-5747 (直通)

E-mail : nousei@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。